

アートとテクノロジーの融合による メディアアート制作と展覧会の実施

電子光工学科 教授 青木 広宙

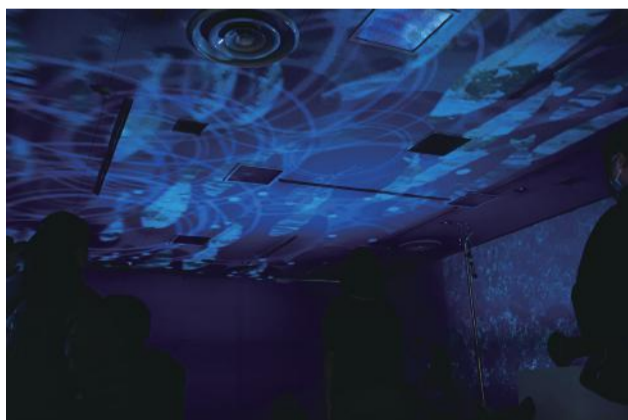
本プロジェクトは、2021年度に引き続き、科学技術を応用して制作されたアート作品を地域社会・地域住民に向けて解放することで、本学の地域連携活動をアピールするとともに、新しい科学技術振興や地域芸術振興の在り方を模索することを目的としています。プロジェクトにおいては、本学学生が、プロのアーティストとの連携により、科学技術を応用したアート作品の制作を行いました。学生たちにとっては、自身が学んできた科学技術の意義や興味深さを伝えることについて考える良い機会になりました。前年度は、予定していた千歳市を会場とした展覧会が、コロナの感染状況悪化に伴い、中止となってしまったため、今年度は念入りな準備を行ない、千歳市民ギャラリーを会場として8日間の会期での展覧会を開催することができました。

テクノロジーとアートが織りなす地域の交流

2023年1月7日～15日に千歳市民ギャラリーで開催された展覧会では、本学の青木研究室やライトアート工房の学生らと厚真町在住のデザイナー・美術家のnatteさんとのコラボ作品が展示されました。プロジェクションマッピングやLEDライティングなどがnatteさんの美術作品・素材に適用されることで、アトラクティブな美術作品が実現しました。会場では、アート作品の制作方法や演出に使われる科学技術についての解説を通じ、アートとテクノロジーについて多面的に理解を深めてもらえるような仕組み作りがなされました。加えて、会場を流れるMonq designさん(音響作家)の楽曲が、作品の臨場感を高めました。

市民団体チトセコさんとの共同で児童向けワークショップを行い、展示作品の一部の制作に参加してもらいました。また、来場者の皆さんに感想を寄せ書きして頂いたところ、そのほとんどが好意的な内容であり、アートや科学技術に対する関心の高さが確認されました。加えて、ご高齢の市民ボランティアの方々に会場案内をご協力いただき、この展覧会が世代を超えた交流の場となったことも、本プロジェクトの成果のひとつと考えています。なお、展覧会の来場者数は、297名(大人236名、子供61名)でした。

本研究では、学生たちが本展覧会の展示作品の制作に関わることで、学生たちにアーティストックな指向を身につけてもらうような機会とすることを目指しています。これらの試みについては、2023年3月にカンボジア工科大学で開催された国際ワークショップで報告が行なわれました。



プロジェクションマッピングによる演出



触れて体験できる作品展示



児童向けワークショップの様子

